

1973 年 夏休み北海道旅行①～道南・道央の旅

1973 年 7 月 12 日(木)～15 日(日)

【1973 年 7 月 12 日(木)】

(1) 東北本線(仙台～青森)、函館本線(函館～倶知安)

1973 年の春休みに九州旅行に行った友人の 1 人と夏休みに北海道旅行に行きました。当時の大学生の夏休みといえば、北海道旅行が定番だったように思います。日本全国の大学生が、リュックを背負って列車内を横歩きするところから「カニ族」と呼ばれ、国鉄の北海道均一周遊券を利用して旅をしていました。

私たちも同じように北海道均一周遊券を購入し、夏休みが始まると直ぐに出かけるためにルートの検討を行い、往復葉書でユースホテルなどの予約を行いました。運よく予約が取れた所もありましたが、半分位は駄目だったように記憶しています。予約が取れなかった所では、最悪の場合は駅で野宿することも考えていました。当時の仙台発の北海道均一周遊券について調べてみると、有効期間は 13 日間でした。旅行日程はそれ以内にする必要がありましたが、北海道を一周する計画を作ったところ全日程が 16 日間となったため、有効期間が 16 日間の東京発着の周遊券を購入したのではないかと思います。

7 月 12 日の深夜 0 時 22 分発の青森行き急行「八甲田」で仙台を出発しました。今回の旅行は 2 人だったので、空いていた席に 2 人一緒に座ることができました。車内でワンカップを飲みながらの旅が始まりました。夜行列車のため、外の風景が見られないのが残念でしたが、ワンカップを飲んで寝てしまったのではないかと思います。

青森に 6 時 15 分に到着し、青函連絡船に乗り換えの際に先を争って走ったかどうかは覚えていません。連絡船には乗船名簿

東北本線ダイヤ①

(急行) 八甲田		
仙 台	0:22	
東 仙 台	↓	
岩 切	↓	
陸 前 山 王	↓	
塩 釜	↓	
松 島	↓	
愛 宕	↓	
品 井 沼	↓	
鹿 島 台	↓	
松 山 町	↓	
小 牛 田	1:21	
田 尻	↓	
瀬 峰	↓	
梅 ケ 沢	↓	
新 田	↓	
石 越	↓	
油 島	↓	
花 泉	↓	
清 水 原	↓	
有 壁	↓	
一 ノ 関	2:04	
山 ノ 目	↓	
平 泉	↓	
前 沢	↓	
陸 中 折 居	↓	
水 沢	2:24	
金 ケ 崎	↓	
六 原	↓	
北 上	2:39	
村 崎 野	↓	
花 巻	2:52	
二 枚 橋	↓	
石 鳥 谷	↓	
日 詰	↓	
古 館	↓	
矢 幅	↓	
岩 手 飯 岡	↓	
仙 北 町	↓	
盛 岡	3:19	

<1973 年 7 月 12 日>

○仙台
 | 0:22 発
 | 東北本線
 | (急行)八甲田[青森行] 5 時間 53 分
 | 6:15 着
 ○青森
 | 7:05 発
 | 青函連絡船
 | 八甲田丸[函館行] 3 時間 50 分
 | 10:55 着
 ○函館
 | 11:50 発
 | 函館本線
 | (急行)宗谷[稚内行] 2 時間 59 分
 | 14:49 着
 ○倶知安

東北本線ダイヤ②

(急行) 八甲田		
盛岡	3:24	
厨川	↓	
滝沢	↓	
渋民	↓	
好摩	↓	
岩手川口	↓	
沼宮内	↓	
御堂	↓	
奥中山	↓	
小繋	↓	
小鳥谷	↓	
一戸	↓	
北福岡	↓	
斗米	↓	
金田一	↓	
目時	↓	
三戸	↓	
諏訪ノ平	↓	
剣吉	↓	
苔米地	↓	
北高岩	↓	
八戸	4:52	
陸奥市川	↓	
下田	↓	
向山	↓	
三沢	5:11	
小川原	↓	
上北町	↓	
乙供	↓	
千曳	↓	
野辺地	5:35	
狩場沢	↓	
清水川	↓	
小湊	↓	
西平内	↓	
浅虫	5:56	
野内	↓	
東青森	↓	
青森	6:15	

第2部で 2019 年に倶知安に降りた時、駅構内にあった観光案内所でユースホステルのことを聞いてみましたが、はるか昔のことで若い職員は当時のユースホステルがどこにあったかについて知りませんでした。



があったので、どこかで用紙を貰って名前や住所などを記入したように思います。

青函連絡船八甲田丸は青森を 7 時 05 分に出航し、函館までの 3 時間 50 分の船旅ですが、夏の連絡船は波もなく揺れはありませんでした。船内食堂の名物は海峡ラーメンだったと思いますが、それを食べたかどうかは覚えていません。連絡船は青森湾を出るのに結構時間がかかり、津軽海峡に出るとイルカが見られるということを聞いていたので甲板に上がって目を凝らしましたが、イルカを見た記憶はありません。暫くすると前方に函館山が見えてきて、函館に 10 時 55 分に到着しました。

函館からは 11 時 50 分発の稚内行き急行「宗谷」に乗車し、北海道の旅が始まりました。駒ヶ岳を見ながら函館本線を北上し、倶知安に 14 時 49 分に到着しました。この日は倶知安駅の近くにあったユースホステルに宿泊しましたが、乗車した列車のことやユースホステルのことは殆ど記憶に残っていません。



函館本線ダイヤ

急行 宗谷		
函館	11:50	
五稜郭	↓	
桔梗	↓	
大中山	↓	
七飯	↓	
大沼	↓	
大沼公園	12:13	
赤井川	↓	
駒ヶ岳	↓	
(臨) 姫川	↓	
森	12:34	
(臨) 桂川	↓	
石谷	↓	
(臨) 本石倉	↓	
石倉	↓	
落部	↓	
野田生	↓	
山越	↓	
八雲	13:01	
(臨) 鷺ノ巣	↓	
山崎	↓	
黒岩	↓	
(臨) 北豊津	↓	
国縫	↓	
中ノ沢	↓	
長万部	13:27	
二股	↓	
蕨岱	↓	
黒松内	↓	
熱郭	↓	
上目名	↓	
目名	↓	
蘭越	↓	
昆布	↓	
ニセコ	↓	
比羅夫	↓	
倶知安	14:49	

【1973 年 7 月 13 日(金)】

(2) 函館本線(倶知安～余市、小樽～札幌)

この日は倶知安を 8 時 06 分発の小樽行の普通列車に乗りました。倶知安でその列車を待つ間に、駅の近くの踏切付近で SL の写真を何枚か撮影しました。羊蹄山を背景に絶好の撮影ポイントがあるということを鉄道写真マニアの友人から事前に聞いていたのかどうかは記憶にありませんが、写真に写っていたのは D51 159 でした。第 2 部にある 2019 年 7 月 27 日に倶知安に降りた時、乗っていた列車の中から写真を撮った場所を探してみましたが、それらしき場所はわかりませんでした。

倶知安から乗車したのは C62 3 が牽引する列車でした。私の記憶にある中で、初めて乗る SL 牽引列車でした。この旅行に行く前に、その鉄道ファンから C62 の音は物凄く迫力があり、心を打たれる音であることを何度も言われていたので、デッキに立って写真を撮ったり音を聞いたりしていましたが、彼が言う程は感動しなかったような記憶があります。

1 時間 19 分の乗車で余市に 9 時 25 分に到着しました。余市から積丹半島の途中まで往復する前に、余市駅前のニッカウイスキーの工場入口まで行きましたが、時間が無かったので工場見学には行けませんでした。

その後は積丹半島の海岸線の国道でヒッチハイクをし、積丹半島を北上しました。その当時、北海道ではヒッチハイクする人が多かったので、手を上げると乗せてくれる車が結



余市

<1973 年 7 月 13 日>

○倶知安
| 8:06 発
| 函館本線(普通)[小樽行] 1 時間 19 分
| 9:25 着

○余市

積丹半島観光

○小樽
| 15:52 発
| 函館本線 (急行)宗谷[稚内行] 33 分
| 16:25 着

○札幌

函館本線ダイヤ

C62 牽引	137
倶 知 安	8:06
小 樽	8:19
銀 山	8:36
然 別	8:49
仁 木	9:18
余 市	9:25



函館本線の C62 3

(急行)宗谷

小 樽	15:52
南 小 樽	↓
小 樽 築 港	↓
朝 里	↓
銭 函	↓
手 稲	↓
琴 似	↓
桑 園	↓
札 幌	16:25



倶知安駅近くの D51 159

構ありました。何台かの車を作り継ぎ、積丹半島の真ん中あたりにあるローソク岩のあたりで折り返して小樽まで戻ってきました。

小樽を 15 時 52 分発の昨日函館から倶知安まで乗ってきた急行「宗谷」に乗り、札幌には 16 時 25 分に到着しました。積丹半島でのヒッチハイクのため、余市から小樽までの間は函館本線に乗っておらず、この区間を乗るために北海道へ行ったことは第 2 部で書いています。

この日は 1972 年の札幌オリンピックで日本のジャンプ陣がメダルを独占した宮の森のスキージャンプ場の脇にあるユースホテルに宿泊しました。その当時、大きな話題になっていた札幌のゴムタイ

や地下鉄にも乗りました。このユースホテルには 2 泊し、翌日(14 日)は時計台、北海道大学のポプラ並木、大通り公園などの市内観光をしました。



【1973 年 7 月 15 日(日)】

(3) 千歳線、日高本線、広尾線

札幌で 2 泊し、今日は襟裳岬を回って帯広まで行きます。札幌を 7 時 40 分発の様似行き(急行)えりも 1 号に乗車しました。この急行は札幌から千歳線を経由し、苫小牧からは終点の様似まで日高本線を走ります。

日高本線は、苫小牧市の苫小牧から様似郡様似町の様似を結ぶ延長 146.5 km の路線です。日高本線は様似から襟裳岬を廻り、広尾で広尾線と繋がって襟裳岬を一周する路線となる計画でしたが、様似から広尾の間は未完成のままでした。そのため、様似から襟裳岬を回って広尾までは国鉄バスが運行していました。

<1973 年 7 月 15 日>

- 札幌
 - | 7:40 発
 - | 千歳線
 - | (急行)えりも 1 号[様似行] 1 時間 01 分
 - | 8:41 着
- 苫小牧
 - | 8:43 発
 - | 日高本線
 - | (急行)えりも 1 号[様似行] 2 時間 48 分
 - | 11:31 着
- 様似
 - | 11:40 発
 - | 国鉄バス 日勝線 1 時間 15 分
 - | 12:55 着
- ◆ えりも岬
 - | 13:40 発
 - | 国鉄バス 日勝線 1 時間 17 分
 - | 14:57 着
- 広尾
 - | 15:40 発
 - | 広尾線
 - | (急行)大平原[帯広行] 1 時間 30 分
 - | 17:10 着
- 帯広

日高線他のダイヤ

(急行) えりも 1 号		
千 歳 線	札 幌	7:40
	苗 穂	↓
	上 野 幌	↓
	北 広 島	↓
	島 松	↓
	恵 庭	↓
	長 都	↓
	千 歳	8:18
	美 々	↓
	植 苗	↓
日 高 本 線	沼 ノ 端	↓
	苫 小 牧	8:43
	勇 払	↓
	浜 厚 真	↓
	浜 田 浦	↓
	鷗 川	9:12
	汐 見	↓
	富 川	9:25
	日 高 門 別	↓
	豊 郷	↓
	清 畠	↓
	厚 賀	9:51
	大 狩 部	↓
	節 婦	↓
	新 冠	↓
	静 内	10:13
	東 静 内	↓
	春 立	↓
	日 高 東 別	↓
	日 高 三 石	10:40
	蓬 栄	↓
	本 桐	↓
	荻 伏	↓
	絵 笛	↓
	浦 河	11:11
	日 高 幌 別	↓
	西 様 似	↓
	様 似	11:31

(急行) えりも 1 号は札幌から 3 時間 51 分走行し、11 時 31 分に様似に到着しました。この列車と接続する国鉄バスは 11 時 40 分に様似を出発します。列車で到着した旅客の大半が襟裳岬方面に行ったのですが、何台のバスで運行したのかは記憶がありません。バスは満席のような状態だったとは思いますが、襟裳岬に 12 時 55 分に到着しました。バス停から少し歩いて襟裳岬の突端が見える展望台に行き、地球が丸いことを感じる太平洋の水平線を見ることができました。



その展望台で信じられないような出来事が起こりました。それは、展望台付近で太平洋を見ていた時のことだったと思いますが、近くにいた女性が中学時代の同級生だったのです。間違いのないと思ったので声を掛けると、まさに同級生でした。彼女も夏休みの旅行で松山から友人と北海道旅行に来たとのことでした。偶然とは言え、信じられないような出来事でした。

広尾線のダイヤ

急行 大平原		
広 尾	15:40	
新 生	↓	
野 塚	↓	
豊 似	↓	
石 坂	↓	
大 樹	16:04	
十勝東和	16:05	
忠 類	↓	
上 更 別	↓	
更 別	↓	
中 札 内	↓	
幸 福	↓	
大 正	↓	
愛 国	↓	
北 愛 国	↓	
依 田	↓	
帯 広	17:10	

らついた名前ようです。

バスは 14 時 57 分に広尾に到着し、ここで広尾線に乗り換え、広尾 15 時 40 分発の帯広行 (急行) 大平原に乗車しました。この当時は、広尾線の幸福と愛国がその名前から一大ブームになっていましたが、急行が両駅で停車しなかったせいか両駅の写真は全く残っていません。また、「愛の国から幸福へ」のイメージで爆発的に売れていた、

「愛国から幸福までの硬券切符」をプラスチックケースに入れた土産品を買った記憶もあるのですが、今となってはどこにも見当たりません。その広尾線は 1987 年に廃線となり、この時に乗車したことは過去の記録となってしまいました。

帯広には 17 時 10 分に到着し、正確な場所は覚えていませんが帯広駅の近くにあった帯広ユースホステルに泊まりました。帯広は夏とは言え暑さを感じることはなく、ユースホステルから根室本線を走る列車を見ながら感じたことと言えば帯広市内のビルの屋上にはビアガーデンが無かったことです。

